

令和6年度 県立日立商業高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>ア 豊かな人間性・社会性を身につけさせ、社会の変化に適切に対応できる能力を育てる。 イ 商業に関する知識・技術を習得させ、産業経済活動を通して国家・社会に貢献できる資質を養う。</p>							
三つの方針	具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題					
三つの方針・ポリシー	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①豊かな人間性・社会性を身につけさせ、社会の変化に適切に対応できる能力を育てる。 ②商業に関する知識・技術を習得させ、経済活動を通して国家・社会に貢献できる資質を養う。	A	各教科等で作成しているGoogleClassRoomの数が多く、確認が追いついていない生徒がいるため、横断的な対応が必要である。 課題研究での地域・事業所等との繋がり維持、総合実践における起業家精神育成など、引き続き、活動的な取り組みの模索が必要である。 中学生人口が減少する中であっても、中学生や保護者に選ばれる学校になるために、本校の取り組みをいかに広報していくかが課題である。				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①上級資格取得の推進と基礎学力の向上。 ②勤労観・職業観の育成とキャリア教育の充実。 ③自他の理解能力の育成とコミュニケーション能力の向上。	A					
	「入学者の受け入れに関するポリシー」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①ビジネス社会に関心を持ち、社会の変化に対応できるように主体的に学習に取り組み、自ら考え行動できる生徒。 ②挨拶やマナー等、高校生としての基本的な生活習慣を身につけ、多くの友人たちとともに明るく活動的な高校生活を送ろうとする生徒。 ③チャレンジ精神を持ち、簿記検定をはじめとする商業に関する各種検定や資格の取得をめざし、自らの進路実現に取り組む生徒。 ④中学校において、学校行事や部活動、生徒会活動に積極的に取り組み、本校入学後も継続して取り組む意思のある生徒。	A					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況				
<p>計画的な小テストや課外授業の実施などにより、自ら積極的に学習しようとする意欲が増したが、教科にばらつきがあるため、今後も家庭学習の推奨や、各教科における主体的な学習態度の育成を継続的に図る必要がある。</p> <p>求人数は昨年度と同様に安定しており、卒業までには就職希望者全員が内定を得ることができた。今年度も企業訪問等による求人開拓や校内体制の効率化に力を入れるとともに、基本的な生活習慣を確立させ、生徒の進路実現に取り組むとともに、求人情報等の発信を更にする必要がある。</p> <p>日々のきめ細かな指導により、学校内及び登下校時の服装や生活態度が落ち着いてきている。他方校外においてマナーの向上を図る必要がある。また、学校として情報の共有に努め、特にSNS上のトラブルに迅速に対応するなど、引き続き、生徒の変化を見逃さない体制づくりが求められる。</p> <p>クラスマッチや文化祭においては生徒会が中心となり、より良い形で実施できた。引き続き、生徒の自発的な活動を促し、委員会活動や年間計画に沿ったLHRの実施などホームルーム活動をより一層充実させる必要がある。部活動については、限られた条件下でも活性化させることができるよう、その方策を考察する必要がある。</p>		(1)上級資格取得の推進と基礎学力の向上	①授業時間の確保に努める。 ②授業公開や授業研究に取り組み、常に学習指導の工夫改善(教材研究)に努める。 ③成績不振者に対する適切な指導を行う。 ④授業や家庭学習に自ら取り組む習慣を身につけさせる。 ⑤到達度テストの活用や、各教科における計画的な小テストの実施により、自主的な学習態度 ⑥学習指導要領の趣旨に沿った学習の充実と資格取得指導の徹底を図る。 ⑦ICTを活用した授業を展開する。	A				
		(2)勤労観・職業観の育成とキャリア教育の充実	⑧各学年の進路指導の充実を図り、主体的に進路選択ができる能力の育成に努める。 ⑨校内研修等の充実を図り、授業満足度(KPI)80%[生徒授業アンケートでのA及びBの回答率]以上の維持。	A				
		(3)授業改善推進プロジェクトチームが主導する授業の改善	⑩規範意識の確立と公共マナーの育成を図る。	B				
		(4)自他の理解能力の育成とコミュニケーション能力の向上	⑪共に学び、助けあう協働の精神を育む。 ⑫挨拶の励行を心がける。	A				
		(5)豊かな人間性と社会性の涵養と特別活動の充実	⑬自発的・自立的な活動等を通して、豊かな人間性と社会性を養う。 ⑭部活動への積極的な参加とその継続を図る。	A				
		(6)健康教育の推進と安全教育の徹底	⑮健康教育(特に感染症対策)の充実と、安全教育の実践に努める。	A				
		(7)家庭及び地域社会との積極的な連携	⑯学校・家庭及び地域社会と密接な連携を図り、理解と協力を得る。	A				
		(8)勤務時間に関する意識向上と時間外勤務の抑制	⑰勤怠管理支援システムにより、勤務時間を客観的に把握し、時間外勤務の短縮を図る。	A				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題				
教 科	国語	基礎学力の向上を図る。	・年四回の校内漢字テストや授業での漢字小テストの実施を通して漢字力を身につけさせ、日本漢字能力検定の合格者を増やす。 ③⑤ B ・国語辞書を授業の中で活用し、意味調べの作業を通して、言語活動を活発にする。 ④ B ・文章を書いたり論理的に話したりする時間を増やし、国語表現力の向上に努める。 ⑥ A	A	・行事が立て込む中での漢字テスト実施は難しく、回数を減らした。場合によっては更に減少することもあり得る。課題確認テストも同様。 ・意味調べはタブレットやスマホでおこなうやり方に移行している。			
		家庭学習の定着に努める。	・ノートや漢字学習帳などを定期的に点検し、授業や家庭学習に取り組みさせる。 ④ A ・夏季休業および冬季休業中に課題を与え、課題確認テストを実施する。 ④ B					
		活字文化に触れ、読書の喜びを実感できる機会を増やす。	・読書指導を図書部と連携し実施する。夏休み前に読書感想文指導を行う。 ④ A					
		国語がわかる喜びを実感する授業の改善に努める。	・授業内容やICT教材の活用方法等について教科内で研究協議する。 ⑦⑨ A					
	地理歴史・公民	国際社会に主体的に生きる知識を身につける。	・主体的かつ対話的な授業を通して、知識の確認及び学習内容への意欲を高める。 ⑤ A ・ICT教材や視聴覚教材、資料集やプリントなど各種の関連教材資料を利用して、授業に変化を持たせ、生徒の興味や関心を高める。 ② A	A	・長期休業期間も含めて基礎学力の向上に努める。 ・授業においてICT機器の活用方法について教科内外問わず協議し、より効果的な活用方法について研究を行う。			
		生徒が各教科に興味・関心を持ち、積極的かつ意欲的に参加できる授業を実践する。	・新聞などを活用して、社会時事を話題にしながら世の中的事象に関心を持たせる。 ② A ・定期的アンケート等を実施し、生徒の意見を取り入れた授業改善に努める。 ⑨ B ・ノートや夏季休業中の課題を提出させることにより、年間を通して教科に意欲的に取り組む姿勢を持たせる。 ④ B					
		数学	基礎学力の向上を図る。			・単元ごとに演習の時間を設け、プリントや問題集の反復練習を通して基本事項の定着を図る。 ⑤ A ・定期的なノート、問題集、プリントを提出させ、学習進度の理解の確認をする。 ④ A	A	授業において、電子黒板やタブレットなどのICT機器の活用方法について引き続き研究する。
			数学に対する興味・関心を持たせる。			・成績不振者に対して、定期的な課外を実施する。 ③ A ・サポートを効果的に活用させる。定期的に提出させ、家庭学習の成果を確認し、自ら学ぶ習慣を身につけさせる。 ④ A		
	理科	基礎的・基本的な知識を習得させる。	・ICTの活用で主体的なノート作成を支援し、自主的な学習を促す。 ④⑦ A ・教科内での授業研究等を行うとともに、生徒の授業満足度(KPI)を学習指導の工夫改善につなげる。 ②⑨ A	A	教科内での授業研究や情報交換を行い、基礎学力向上のための授業実践について研究していく。新教育課程に対応して理科室の器具を整理し、本校の実情に合わせた実験学習を安全に行う。			
		自然に対する関心や探究心を高める。	・日常の自然現象に興味を持たせるような教材を準備し、科学的な思考力・表現力を養う。 ⑥⑦ A ・ICTの活用やノート提出により生徒・教員相互のコミュニケーションを多く取り入れ、自ら考えさせる姿勢を育てる。 ⑦⑪ A					
		科学的な思考力・表現力を育成する。	・目的意識をもった観察および実験を行うことにより、科学的な見方や考え方を養う。 ④ A					
		保健体育	基礎的な運動能力と体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、継続的に運動ができる資質や能力を養う。			・集団行動の徹底を図り、整列および挨拶の励行に努める。 ⑩⑪⑫ A ・公正、協力、責任などの意識を身につけさせ、自他の尊重と安全な授業展開に努める。 ⑮ A ・校内マラソン大会や体力テストをおとして、成就感や達成感を体験させ、自尊心を培う。 ⑬ A ・体育委員をリーダーとして準備運動を実践し、自発的に授業に取り組む態度を身につけさせる。 ④ A	A	保健体育科として、とても充実した一年間であったように感じる。新しいことにチャレンジして多くの学びを得ることができた。学校全体としてさらに身体能力が向上するよう取り組みを続けて体力テストの数値がよくなるように頑張っていきたい。
健康安全に関する理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を養う。	・心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 ④ A ・心身の健康や安全について、基礎的な事項を理解させ、適切な意思決定や行動選択の基盤を身につけさせる。 ⑮ B ・科内での研修を充実させ、ICTを活用したわかりやすく、生徒の満足度の高い指導を行う。 ②⑦⑨ A							

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	評
音楽	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的な背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	・他教科(地理歴史等)の授業内容と連携し、歴史や文化に対する理解を深め、表現の創意工夫を生かせるようにする。	②	B
		・インターネットを利用して楽曲の歴史的背景等を調べる。	⑦	B
		・技能が不十分な生徒に対して、個別指導等を行う。	③	A
		・自己のイメージをもつために、想像力を働かせてイメージや表現意図を言葉にする言語活動に取り組ませる。	⑥	A
	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	・自己の演奏動画をスマートフォン等で撮影し、客観的な視点から確認することにより、音楽表現を創意工夫する。	⑦	A
		・曲のよさや美しさを味わって聴くために、他者の表現を知覚(聴き取る)し、感受(受容)できるようにする。	⑥	A
		・可能な限り多様な音楽に親しめるよう、題材の精選に努める。	⑥	A
	主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	・音楽に親しむために必要な読譜力を養い、より主体的に生涯にわたり音楽活動に取り組めるようにする。	⑥	B
		・ファンタジックな活動等として、音楽以外でも協動的に活動する態度を養う。	②⑪	A
	美術	デッサンや色彩の基礎を学習する。	・時間ごとにテーマを絞って技術を習得していけるよう指導する。	②
基礎をもとに、自分なりの表現を追求する。		・コミュニケーションをとりながら、個々の発想のよさを汲み、形にしていけるよう指導する。	⑪	A
伝統的な技術の良さを知る。		・伝統的な技術についての体験等として、伝統を大切にしようという心を養えるよう指導する。	④	B
自他の作品について、良さを見つけられる。		・鑑賞の授業を通して、多くの作品に触れ、自分なりの感想を持ち、特にその良さを見つけられるように指導する。	④	A
日常生活や進路先で役立てられる知識を身につける。		・授業でやったことが、どのように日常生活や進路先で役立てられることができるかを、考えながら制作できるよう指導する。	⑬	A
英語	基礎学力の向上を図る。	・単語小テスト等を行い、語彙力を強化する。	⑤	B
	家庭学習の定着に努める。	・ICTを効果的に活用し、授業形態の工夫改善に努める。	①②⑦	A
		・成績不振者に適切な指導を行う。	③	A
	英語学習に喜びを持たせる。	・全商英検の合格者増加に向け、課外などを実施する。	⑥	A
家庭	基本的な知識や技術を習得させ、実践的な能力や態度を育てる。	・予習すべき課題を提示し、その学習状況確認を適宜行う。	④	B
	生徒の興味・関心に配慮した授業を工夫する。	・授業アンケートでA及びBの回答率80%以上を取るよう努める。	②⑦⑨	A
	作品の完成により、達成感を持たせる。	・ALTを活用し、「生の英語」を体験させる。	①②	A
	・実践内容を多く取り入れ、具体的にわかりやすい授業を心がける。	②⑥	A	
商業	専門科目の知識・技能を定着させ、人間力が向上するように努める。	・日常生活との関連を大切に、生徒の実態に合った内容や教材の精選に努める。	②	A
	生徒が自発的に学習する態度の育成に努める。	・視聴覚教材やICTを有効に利用し、授業の理解を深め、アンケートによる授業満足度80%以上を目指す。	②⑦⑨	A
		・製作実習に関しては、個人的にきめ細かな指導を行い、全員が完成できるよう指導する。	④	A
	マナー教育の実践に努める。	・成績不振者に対しては、課外指導を行う。	③	B
		・授業担当者の連携を図り、ICTを活用し授業を充実させる。	②⑥⑦	A
	教務	出張および年休時の授業交換を徹底する。	・商業科目に関する知識と技能を習得させる。	②③
・商業科目に関する資格を取得させる。		⑥	A	
・適宜、課題を提出させる。		④	A	
・検定試験前に課外を実施する。		⑥	A	
・アンケートを実施、生徒の意見も取り入れた授業改善に努める。		②⑨	A	
・小テストを実施する。		⑤	A	
・授業以外での資格取得を奨励する。		⑬	A	
・毎始業ならびに終了時に挨拶を励行する。		⑫	A	
・「総合実践」等で、実務上のマナーについて実践的に学ばせる。		⑩	A	
情報広報		出張および年休時の授業交換を徹底する。	・出張および年休時の授業交換を徹底する。	①
	・会議の準備や方法について、大幅に見直しを行う。	⑫	A	
	・各学年、各部、各教科より提案された行事を把握し、円滑に実現を図る。	⑧	A	
	・授業改善推進プロジェクトチームと連携し、指導方法の工夫、改善や授業内容の公開等の研究を行う。	②⑨	B	
	・新学習指導要領に則った教育課程編成を行う。	⑥	A	
	・業者テストのデータ及び教材を有効に活用し、授業力向上に役立てる。	⑧⑨	A	
・成績不振者に対して適切な指導を実施する。	③	A		
・生徒個々の状況に合わせて、課外等を実施し適切な指導に努める。	④	B		
・学校案内とポスターを刷新し、本校ホームページや学校説明会等で情報提供を積極的に行う。	⑬	A		
特別活動	生徒会活動については、生徒を主体として企画させ、運営できるよう指導する。	・校内で管理するパソコンや機器の管理点検に努める。	⑦	A
	・個人情報に関する管理を徹底し、秘密保持に努める。	⑥	A	
	・共有の校務データから、効率的な処理が行えるように支援する。	⑥	A	
	・HPの更新に努め、広報活動を積極的に行う。見やすいHP作成を心がける。	⑬	A	
・成績データの出入力が円滑に行えるように、関係部署との連携に努める。	⑥	A		
特別活動	・生徒会が主体的に動き、行事もスムーズであった。	・生徒会活動については、生徒を主体として企画させ、運営できるよう指導する。	⑬	A
	・あまり動いていない委員会も仕事をすることで委員会活動が増えた。	・HR活動においてキャリアパスポートを積極的に活用し、振り返りを通して自己理解につなげる。	⑪	B
	・地域との連携が野球部以外でもできればより地元から応援される部活動になっていくのではないだろうか。計画したい。	・各種委員会活動の充実を努める。	⑬	A
	・クラスマッチ等として成就感・達成感を体験させ、クラスの連帯意識を培う。	⑪⑬	A	
	・校外における生徒の規範意識、SNS使用や交通についてのマナーを向上させる。	⑩	B	
	・生徒の自主的ならびに自発的な活動が促進できるよう、顧問は適切な指導および援助を行う。	⑬	A	
	・平常の活動等として生徒の心身の健康状態に気を配る。	⑮	A	
・保護者や地域の指導者との連携を積極的に推進し、よりよい指導環境を整える。	⑮	B		
・日頃の練習や練習試合等を通して、各部活の活性化とレベルアップに努める。	⑭	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
生徒指導	いじめの早期発見ならびに早急な解決に努める。	・生徒との面談やアンケートにより、いじめを早期に発見するように努める。 ・いじめ防止対策会議を開き、被害者の安全確保を最優先して早急な解決に努める。	⑩⑫ A ⑬⑯ A	・いじめアンケートを含めた企画は計画通り実施できた。したがって、いじめの早期発見に寄与している。 ・服装の適正化、遅刻の減少については、SHRなどを通して指導を行っているものの、スタートをきくしている生徒が郊外において認められる。マナーの向上が次年度の課題である。		
	基本的な生活習慣の確立と、心の教育を充実させる。	・規範意識の確立と公共マナーの育成、服装の適正化を目指す。 ・遅刻を繰り返す生徒については減少を図る。	⑩⑫⑬ B ⑯ B			
	家庭と地域社会、関係機関との連携を深めながら、事故及び非行等の未然防止に努める。	・家庭との連絡を密にし、かすかな情報やサインを見逃さないよう努める。 ・外部講師を招き交通マナー向上や薬物乱用の防止に努める。	⑯ A ⑩⑬ A			
	豊かな人間性と社会性の涵養及び公共マナーの向上に努める。	・挨拶、言葉遣い、制服の着こなし等マナー向上をはかる。 ・登下校指導や通学路指導を実施して、公共マナーが向上するように努める。	⑩⑬ B ⑩⑬ A			
	悩みを持つ生徒への指導の充実を図る。	・スクールカウンセラー等を利用し、相談できる環境の整備に努める。	⑬⑮ A			
	生命の尊重と安全教育の充実を努める。	・被害調査等の実施を通して、問題行動の未然防止に努める。 ・校内を適宜巡回するなど盗難防止に努める。	⑩ A ⑩ A			
	進路指導	キャリア教育の活動全体を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図り、主体的に進路選択ができる意欲・能力の育成に努める。	・年間計画を作成し、公表する。 ・進路懇談会、職業講話、就職進学体験発表会等を実施する。 ・進路相談や個別面談を継続的に実施する。		⑧ A ⑧ A ⑬ A	・今年度同様に、3学年と進路との連携をしっかりとついでいる。 ・1・2学年の生徒たちの進路意識高揚のために、LHRIに進路学習の時間を増やす。
		学校全体のキャリア教育の充実を図るために、各学年における計画的な進路学習の支援推進に努める。	・進路ノートや進路資料を活用したHRを実施する。 ・自己理解のために、基礎力測定診断や適性検査を実施する。		⑧ B ⑬ A	
生徒の進路拡大を図るために、関係機関と連携し、職場開拓や進学情報の収集・提供に努める。		・求人票や受験報告書などをHRで活用する。 ・進路の手引きを作成し、進路情報を提供する。 ・大学、短期大学、専門学校や企業と連携を密にし、情報収集を行い、生徒ならびに保護者に提供する。	⑧ A ⑬ A ⑬ A			
規則正しい生活を送ることができるように、心身の健康の充実を図る。		・各種健康診断等を適切に実施し、事後措置と保健指導を行う。 ・保健室頻回利用者について、担任や学年と連携して指導にあたる。	⑮ A ⑮ A			
保健厚生	生徒が学習するための環境を整備する。	・平素の清掃の徹底と、年二回のワックス及び年数回の大掃除を実施する。 ・震災などの緊急時の対応を見直し、防災避難訓練を実施し、防災に対する正しい知識を身につける。	⑩⑪ A ⑮ A	・感染症や熱中症の予防策に取り組み、生徒の健康の保持増進に努める。 ・安全点検及び安全教育を充実させる。		
	防災体制の見直しを図り、災害時に安全な避難体制の確立を目指す。	・EPA使用に際して、適切な計画を立て指導する。	⑮ B			
図書館	資料センターとしての資料の充実を図る。	・図書等の資料の希望調査をおこない、図書部会で幅広い分野から選定する。 ・推薦図書の選定をし、生徒や教職員への広報に努める。	⑬ A ⑬ A	・今年度と同様に書籍・雑誌の購入、案内に努め、来館者増を目指す。 ・図書委員の仕事内容の再確認と研修会への参加を促進。 ・担当職員がさらに図書館業務に慣れるよう、情報の共有と協力の促進。		
	読書指導に努め、生徒の読書意欲を喚起する。	・「図書館報」「あすなろ」などを通じて図書館の広報活動を行う。 ・読書感想文集の作成をおとし、読書指導を充実させる。	⑬ A ④ A			
	授業やHRと連携し、学習センターとしての機能を向上させる。	・授業における調べ学習に積極的に協力する。 ・HRで全校読書会を実施し、発達段階に応じた生徒の読書体験を増やす。	⑥ B ⑥⑬ A			
	図書館利用の活性化を図る。	・新入生への図書館オリエンテーションを実施する。 ・図書委員会の継続的な活動を支援する。	④⑪ A ⑪⑬ A			
渉外	PTA活動に対する委員の意識向上を図り、生徒指導・成人教育・広報委員会活動をおこなう。	・生徒指導、成人教育、広報の各委員会活動を積極的に行う。 ・保護者に本校HPを利用して、PTA行事や計画等の情報を提供する。	⑮ B ⑮ A	・活動を再開する中で、役員、行事運営方法の引き継ぎを工夫する。 ・行事等を精選する。		
	保護者と学校との相互理解を積極的にすすめて、教育環境の向上に努める。	・各種PTA行事を休日に実施し、参加者の便宜を図る。	⑮ A			
	家庭教育研修講座をはじめとする学校行事を通して、学校・家庭及び地域社会と密接な連携を図り、理解と協力を得る。	・PTA行事を積極的に支援するとともに、同窓会活動などの運営円滑化に努める。	⑮ B			
一学年	高校生らしい基本的な生活習慣を身につける。	・身だしなみ、礼節、言葉遣いの重要性を認識し実践する。 ・基本的な生活習慣の確立と自立心を養う。	⑫ A ⑩ B	・基本的な生活習慣を土台として、自身で考え、行動し、結果からその後の行動を選択できるマインドを育てたい。 ・生徒の学校生活の細部を職員全体で見守り、認めながらひとり一人の経験をステップアップで積み重ねていきたい。		
	ビジネスの基礎を学び、資格取得を目指す。	・ビジネス教育を学ぶ意義を認識し、自ら学習することのできる生徒を育成する。 ・各種検定試験に目標を持って取り組み、継続して努力するマインドと実践力を育てる。	④ A ④ B			
	部活動や学校行事に主体的に取り組み、心身を鍛える。	・部活動での地道な取り組みを大事にし、縦横の人間関係を円滑にする能力を育成する。 ・主体性を持って学校行事やホームルーム活動に参加し、豊かな心と協調性を育む。	⑬ A ⑬ A			
二学年	高校生らしい基本的な生活習慣を身につける。	・身だしなみ、礼節、言葉遣いの重要性を認識し、実践する。 ・基本的な生活習慣の確立と自立心を養い、主体的に行動できる生徒を育成する。	⑩ B ⑫ B	・各自の進路実現に向け、学習における基礎基本の重要性を認識し、日々の授業や家庭学習を大切にすることを徹底する。 ・みだしなみや基本的な生活習慣の定着を目指し、自身で考えて行動できる人材になれるよう意識した生活を送る。		
	基礎学力を向上し、上級資格取得を目指す。	・主体的に学習に取り組み、基礎学力の向上・定着を目指す。 ・各種検定試験に目標を持って取り組み、上級資格を取得し進路実現につなげる。	③④ A ⑥ A			
	部活動や学校行事に主体的に取り組み、心身を鍛える。	・主体的に部活動、学校行事、ホームルーム活動に参加し、豊かな心と協調性を育む。 ・主体的に進路行事に取り組み、進路実現に向けた意識付けを行う。	⑬ A ⑧ A			
三学年	基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての基本的な生活習慣(欠席・遅刻・早退、挨拶を含めた)や規範意識の確立に努める。自己管理能力を育成させる。 ・面談等を密におこない、生徒の変化に適切に対応することで、問題行動の未然防止に努める。 ・あらゆる場面を通して現在の社会状況を認識させる。	⑩⑫ B ⑩ A ⑩ A	・進路決定後も基本的な生活習慣(欠席・遅刻・早退)の確立を意識して日々の生活を過ごさせる。		
	進路に合わせた学習や資格取得を計画させる。	・学習の習慣化に力を入れる。きちんと授業を受けさせ、宿題や課題などをしっかりと提出させる。一般常識や学習の基礎および基本を固めるとともに、発展的な内容も学習させる。 ・全商一級の三種目以上合格や日商簿記二級合格、ITパスポート合格など進路達成に合わせた資格の取得を目指す。 ・授業をおとし生徒の観察や生徒の相談に応じ、実態を把握することで多面的な生徒の理解に努める。また、社会人としての適切な言動ならびに振る舞いができるように指導する。	④⑦ A ⑦⑧ A ⑧⑨ A			
	進路目標の達成に向けて学校生活に取り組む。	・進路目標を早めに設定することを促し、達成するための準備や方法を考えさせる。	⑧ A			
	進路目標の達成に向けて学校生活に取り組む。	・コミュニケーション能力を育成する。 ・進路情報を進路なく生徒に伝達するよう、進路指導部との連携を密にする。進路達成のための適切な指導を行い実行させる。	⑧⑪ A ⑧ A			

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない